【十二月の言葉（平成二十七年）】

災難が来ないように祈るのが信心ではない。
災難が来ても
引き受けていける力を得ることが信心です。

この世は無常です。常なるものは何もありません。「ゆく川の流れは絶えずして、もとの水にあらず」と言われるように常に変化しています。無常なるがゆえに、一寸先は何が起こるかわかりません。

どっちに転んでも大丈夫と言えるものを身につけていなかったら、結果が悪かった時とても苦しいです。

仏法を聞くとは、どっちに転んでも、災難が来ても、思い通りにいかなくても大丈夫というものを得ることです。

災難が来ないように祈るのが信心ではありません。この世は、必ず〝生老病死〟の苦しみに出会います。祈って無くなるものではありません。生きていれば必ず別れや死があります。与えられたことを引き受け、それを乗り越えていくしかないのです。その乗り越えていく力を得ることが信心です。

（大阪府羽曳野市　明教寺ホームページ参照）